

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑩【ボランティア】 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。	総合的な学習

【題材】

希望のひまわりプロジェクト

～体験と共感を通じた復興教育～



【対象】

2学年 179名

【実践の概要・詳細】

1.ねらい

- (1)復興支援の活動を継続し、震災津波を風化させないという意識を持たせる。
- (2)ボランティア精神を養い、自発的、主体的な活動に発展させる。
- (3)支援を必要とする地域の方々と関わりながら、思いやりの心を大切にする態度や実践的行動力を育成する。
- (4)体験したことから「自分に出来ることは何か。」
「どのような生き方をしたいか。」を考えさせ、未来への志を持たせる。



昨年度、陸前高田市下矢作で、枯れたひまわりの刈り取りボランティアを行う。



雨でぬれていたのので、学校に持ち帰る。乾燥させ、種にするため、一粒ひとつぶ穀をとった。



2.実践

(1)復興支援活動の継続

①ひまわりの育成

陸前高田市下矢作地区「種っこまくべえ会」から頂いたひまわりの種を学年全員で植え、育成し、二代目の種を収穫した。

②ひまわりの種の配布

北上市の地元商工会の協力を得て、「みちのく芸能まつり」に参加し、育てたひまわりと学年の活動を紹介するための展示ブースをJR北上駅前に設営する。また多くの場所でひまわりの花を咲かせ、震災の風化防止を図りたいという願いを込めて、駅を利用する観光客に、個包装した種を900袋配布した。(H25.8.2・3)



③「種っこまくべえ会」との交流会

下矢作多目的センターを訪問し、自作したパワーポイントをつかって、代表の生徒たちが1年間の活動の報告をした。その後、下矢作地区の方々から、現在の暮らしについての思いを拝聴した。(H25. 11. 28)

④オリジナルソングの作成

今までの活動を基に、生徒による作詞・作曲の歌を創作した。歌詞の中に、ひまわりを育てる意義や、伝えていくことの大切さが含まれ、震災津波を風化させないという意志を表現している。立志式で全校、2年生の保護者、地域の方々に披露した。(H25. 11. 30)

⑤講演会開催の継続

前年度は2回、陸前高田市出身の講師による講演会を学年で開催している。本年度も、高田高等学校の先や、三陸鉄道の社長さんを招き、震災の体験談、被害の状況、復興の取り組み、困難な中での生き方等を伺った。命やあたりまえの生活の大切さについて改めて考えさせられた。(H25. 11. 10, 11. 30)



あの雨の中のひまわり畑
片方だけの小さな長靴
哀しみだらけの景色さえ
いつしか忘れ 笑っていた

ボクらが育てた希望の花が
空に向かって揺れている
哀しみを忘れないように
いつまでも咲き続けていく
NEVER SAY NEVER

二学年作詞作曲

「NEVER SAY NEVER」より抜粋

(2) 自発的・主体的なボランティア活動

①チームサンフラワー結成

生徒10名が自主的にボランティア活動団体「チームサンフラワー」を結成し、ひまわりの水かけ、草取りを自主的に行う。みちのく芸能祭りの際のブースの準備や展示物の作成、配布活動と、取り組みの中心となった。下矢作地区との交流では、自分達が作ったパワーポイントを使い活動の報告をした。機材のセッティングなども含め、自分達で交流会を運営した。意欲的であり、自分達の活動に誇りを持っている。

②ひまわりの種の配布

みちのく芸能祭りは、開催日が夏休みであり、ブースの設営、ひまわりのプランター搬入、配布活動等全てボランティアの手で行われた。2日間で延べ50名の自主参加があった。(H25. 8. 2・3)



③はがき新聞の作成と配布

種の配布と一緒に、解説書代わりの「はがき新聞」を添えた。この制作は3名の女子が自主的に行った。丁寧に書かれており、とても好評であった。



(3) 地域の中で支援活動を展開する

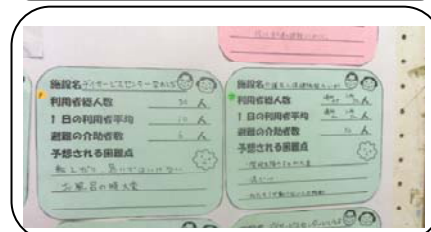
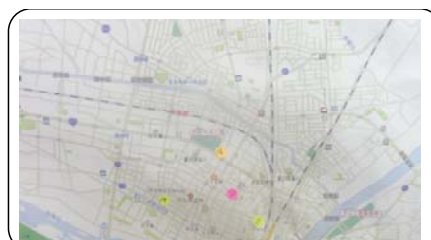
①福祉授産施設、介護施設での福祉体験

「自分達の足元を知ろう」「地域の支えになろう」というテーマで、市内の施設30ヶ所で福祉体験学習を行う。どこにどのような施設があるか、どのような支援が求められているかを知ることができた。また、職員や利用者とのコミュニケーションをとることで、人とのつながりの大切さや他人の喜びが自分の喜びとなることを実感できた。(H25.10.9)



②施設の規模と避難に関する調査

災害が起きることを想定し、①の施設では、どこに避難するのか、どんな困難が予想されるかを調査した。調査したものはマップにまとめて、文化祭で学年展示した。(H25.10.26)

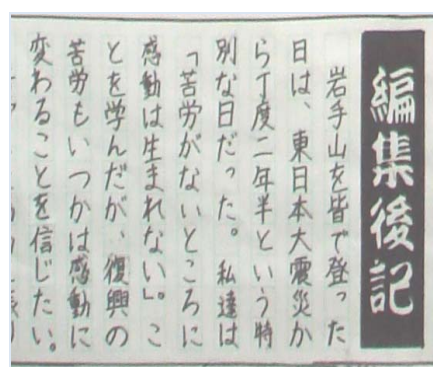


(4) 未来への志

①岩手山登山

宿泊研修の一日目に、岩手山登山を行った。友達からの励ましや支えによって大きな力が生み出されてくことや、あきらめなければ成し遂げられることを体験として実感した生徒が大半であった。「岩手の未来を背負っていくのは自分たちなのだ」と、頂上から見た景色に誘発されて考えた生徒や、「苦しみがあるから感動がある。復興も苦しみの中にあるが、いつか感動に変わることを信じたい。」と考えていた生徒もいた。偶然にも、この日は、「震災から二年半」という日にあたっており、感慨深いものがあった

(H25.9.11・12)



学級壁新聞の記事より抜粋

②立志式を機に

立志式では、「理想を求め、未来を創造できる自分になろう」をテーマに、自分の生き方を考え、志を決意し、誓いとして宣言した。(H25.11.30)「被災地ボランティア」と「介護福祉体験」で学んだことが決意決定の理由の半数を占めた。



保護者から

- ・とてもいい取り組みなので、できればどの学年でも取り組んでみてほしい。
- ・被災地の現状を見るだけでも支援の意識が変わるはず。見に行くだけでも他の学年もしてほしい。
- ・被災地への支援はまだまだ必要なので、学校でも支援を継続してもらいたい。

保護者この感想は、「取り組みを学校全体のものにしていくことが課題である」ということを示唆している。



まとめ

◆沿岸で実際に震災津波にあった方々、先生方、児童生徒の皆さんの体験や復興への努力を考えると、「ひまわりプロジェクト」はとるに足らないことのようにも思える。しかし、本校の生徒は「ほんの小さなことだけど」と言いながら、真摯に活動に取り組んできた。また、関わる教職員も、「困っている人がいたら、何かしてあげたいと思い、行動できる人になってほしい」という願いを持ち、「今はその種を生徒の心に蒔いている」と思いながら実践をしてきた。生徒の自主的な活動や日常生活の中で、復興支援への意識が見られ始めていることをひまわりプロジェクトの成果と考えたい。

◆ひまわりプロジェクトは三年間通しての復興支援教育(キャリア教育)として計画されている。来年度は、世界の情勢と支援について考えさせ、修学旅行に結び付けた体験的学習を展開していく予定である。生徒は大地へ、教師は生徒の心へ希望の花の種を蒔き続けていく。